

二九六

桐生玉手箱

二



お生玉の箱書し二

才三 整戸乃神儀

焦遂又中方は卑哉。言漢雄辯曰。遂と。と。を  
と。作。と。と。い。ゆ。か。り。友。と。進。と。づ。ら。れ。る。さ。ん。を  
口。と。立。流。よ。力。の。と。物。と。け。い。ふ。と。石。指。の。事。  
も。ん。と。相。と。せ。し。更。ら。ん。と。る。の。一。而。あ。ま。ん。の。と。り  
一。づ。も。の。こ。び。う。ら。わ。け。て。こ。も。一。心。也。と。う。神。儀。此  
家。と。い。ま。も。ま。る。る。と。一。と。感。と。る。ふ。わ。り。あり。候。人。る  
也。妙。と。い。ま。も。生。ま。れ。る。ふ。け。此。事。ゆ。ら。ま。て。優。き。の。事  
せ。し。ま。の。あり。別。法。か。ら。の。あり。事。弱。け。る。ま。わり。

玉手箱

二二

脾胃は死て人なり好む物あり。去嫌ひあり。法養あり。生業の上よわくと好むひある事。病常かり。志をまた又理と事。己に事。人。を。持。を。好。む。事。も。ま。る。る。と。い。ひ。け。れ。ゆ。も。好。物。と。愛。ず。る。事。も。ま。る。る。ゆ。り。也。て。我。魂。を。我。魂。の。ん。ま。せ。に。ま。り。時。へ。お。い。さ。る。あ。や。ま。り。も。か。東。を。る。も。持。に。い。の。事。も。知。る。物。也。我。ん。は。我。さ。り。あ。つ。け。て。を。る。は。海。の。ゆ。ま。は。皆。我。修。成。ゆ。り。も。ふ。り。ゆ。ゆ。ゆ。と。聖。人。の。刻。已。後。れ。と。こ。ら。ふ。我。修。よ。刻。之。刻。れ。は。後。と。と。人。ま。も。は。し。り。り。と。ま。え。の。ま。ね。を。あ。く。云。よ。い。わ。く。ま。る。と。い。ひ。け。り。た。時。紙。懐。の。中。に。弱。きて。を。別。の。



八百子の神建之の妻に東に合合あり。何とぞ日の神乃  
志戸をおさせりや。或は深へるまじきと。若小首は  
うつけく分列袋を振ひます。つらなくよぶ葉の  
出もそ妙を以痛をいひける。八百子神乃以痛を  
まばら痛八百らふりへ神代より流る。誓もて思兼  
命一分お仕出もひ。志戸の主人は角をうけ美坂樹の  
枝は八坂瓊の二百箇所統八咫の鏡。和幣白和幣をうけ  
美中に押立り。あまを纏の始り。まらへに鈿女余勢を  
うらせ神紙うら。神玉紙奉りたまひつらあけへ神とあけ  
す。筆と柱とあまにいらるるは。是をうけて流

天照大神  
大御魂  
天照大神  
大御魂  
天照大神  
大御魂  
天照大神  
大御魂  
天照大神  
大御魂  
天照大神  
大御魂



玉手箱

二二三

天照大神  
大御魂  
天照大神  
大御魂  
天照大神  
大御魂  
天照大神  
大御魂  
天照大神  
大御魂  
天照大神  
大御魂



天照大神  
大御魂  
天照大神  
大御魂  
天照大神  
大御魂  
天照大神  
大御魂  
天照大神  
大御魂  
天照大神  
大御魂

玉手箱

二二三

の神建志ひくの一藝まり。を敷酒柏子等とす。一と  
 さぐんの大さぐれ。わらわりやと天照を神志戸をウ  
 りしきまを。志戸のまふよひひてより船はまが葉摺の  
 櫻付とてうららひてふ力権令志戸をを授のけつ  
 け手ををて引物まつをれ。人の面志らくと見え  
 言の教もゆふとひををせしごとく。法神とあは  
 一多分と。後どんくは子孫とびらりて葦系乃未  
 形く。神の神正統絶中守伝とてもねわらるる神必  
 かりと。そとより人五十六代天皇の御宇に  
 傷事とす。二十代神明天皇の御宇に佛はより承

神石の神聖として此のたをけとらう。そふゆゆもそのち  
らばとゆゆらう。ゆらゆらとさき神石は生きたるゆらゆら神  
職の家は生れたるゆらゆら他の業を初ると志すゆらゆら  
神祝の志するゆらゆらすすゆらゆら。いづれの職よりゆら  
先神を侍つてゆらゆら神業を他よりゆらゆらゆらゆら不  
若びとまき物ゆらゆら。ゆらゆら神業をゆらゆら他ゆらゆら  
つとむるすゆらゆら。神業のゆらゆらゆらゆら。ゆらゆら二ゆら  
生業をゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら  
流ゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら  
ゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら

わらゆらゆら生業ゆらゆらゆらゆら。傳ゆらゆら侍。百姓の子は百姓。  
職人の子は職人と連ゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら  
我ゆらゆら傳る業ゆらゆらゆらゆら。他の職は志んゆらゆらゆら  
乃ゆらゆらゆらゆらゆら。小角の業はゆらゆらゆらゆらゆらゆら  
ふゆらゆらゆらゆら。ゆらゆら又醫道はゆらゆらゆらゆらゆら  
ゆらゆらゆらゆらゆら。ゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら

才四 醫道乃源起

史医のゆらゆらゆらゆら。日本はゆらゆらゆらゆら。史はゆらゆら命。ゆら  
名命と志をゆらゆら。病をゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら  
ゆらゆらゆらゆらゆらゆら。ゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら

中つらとや。倭之方が今日日本にたつてつる。倭はそへ伏羲  
神農炎帝よりまかされた。い之皇へ志して医なり。  
倭伯鬼史匿は信じて医也。張仲景徐文伯は守めて  
医なり。伊尹を祝して聖にして医なり。葛洪董奉は信じて  
医なり。折中神農氏は此道の本は根を口に入て  
嚙らまき。下地はあかく交教をそそ。熊鷹をくわして掌た  
す。しつしの歌り。幻瘧の落る薬は法華此能毒障は  
一也。そまらる痛海はふいて。黄帝と岐伯の又問を  
小方乃花と咲せ。あきを書物となりて。内經と号する。ま  
後宋之明の間乃名医をひく。小述作して書物。いふ

王手箱

憤もけよかり。之階差の極本をえつて。才一医の之を  
かす。すんむ。ま業は彼せと。祖父より二世は。人なる。業  
人より。あざんを。法人。これを。肯。を。理。か。ら。終。の。七。此。振  
か。げん。く。く。け。く。の。か。れ。命。を。得。る。も。る。を。即。門。と  
か。り。き。進。を。呂。氏。の。禮。記。乃。注。は。勸。進。た。る。倭。は。あ。く。此  
矣。況。わ。り。て。宋。景。濂。の。注。は。一。は。針。灸。二。は。本草。三。は  
素。問。難。經。け。こ。の。此。乃。理。成。く。究。め。た。る。を。云。我。師。の。教  
生。と。し。ふ。へ。之。世。お。傳。乃。医。も。進。と。も。扇。方。此。業。乃。と  
り。ら。ひ。ふ。下。も。醫。を。あ。り。て。死。を。ま。り。此。病。人。を。極。楽。也  
一。毎。夜。あ。り。け。あ。に。や。ま。た。り。を。そ。一。世。の。医。う。ら。る。業



聘君よるるかちりしよりびらぐとせらる。又虞庭の難儀乃  
注よハ素問本草經これに二世の書と号けい書り  
よりつういふるを二世の医といと記し。素問素問曰論  
又ハ伏羲神農黃帝の書こそを二墳といふ。道をいひ  
二世の医といふ。續医説ハ素問東垣朱丹溪滑伯仁な  
といふ名医皆祖ふらとお傳乃医いあらずしてはく醫術は  
通し書をあつりてを立はるの指範とせらる。書を  
しと要して二世お兼いかりつらるゆゆんといひて。年  
竟おれいものづい後のかうなる論かきた。今これを  
五折減して見るに。そのはとくといふ。而も此醫書に

王手箱

テ一七

これとて一世人の医いなり。学力つてて世のやんま  
か。又二代お傳此医ハ他ハ他依りてを名動は後  
つて祖父の名とていひ。祝の名をたづひて業とていひ  
そのあつらるるに。二世の医といふ。祖父といつてはる。医とい  
く。又國庭をあげくするべし

才又丹溪乃執心

北辰のま新よ。若て流星のあまにむふごとく。當時ハ田舎  
とらと上方とのちと名医よとせらる。ひてまら。此から書生  
ま。育れ醫師ハ學問をさしめゆくとて。天下此廣さ中  
あは。いり。名師ヤあんと。武志。此をさるごとく。津

備へたをたつひとむらうらうら。ま道は執られふらさ  
事といふやうな。相又師と人をもて才子乃志代  
うしく見受け一ス事をお傳を。賣る云が張らと下部  
乃控もさぬぐとたれせしと背をたしとんを強を  
ま後軍はの真代を傳へし新ひ之故はま言やま言  
あづんむつらう事さんとの多う。未丹溪の羅文を  
見つんむを新道しうと一應や二應しうけがらん。  
さぬぐと強らとせう。羅文をのつあれ文をさるに乳の  
とまぐらうが文をのまうへ大井門の立役だもこれに  
まらえき。妻を大藤より引く師匠をさる一巻は。ま

玉手箱

二八

ぢふあぬ新ゆつ。銀のむらにわさで氷は体は  
門あはみ流しして取つても終は一交も對面を。板木乃  
種を中てむらうらうらうらうらうらうらうらうら  
かんし海軍の海軍男が小町の雛麻よりうらうらと  
つまは欄よりむらうらうらうらうらうらうらうら  
九十九枚もぐむひつらたつて一巻をのりて平中と生  
一あらしを末の世よりうらうらうら。丹溪はさきに  
切らる志をけけらうらうらうらうらうらうらうら  
むいそだらう事かまはみかして益をえらう。学海を  
うらうらうらうら。醫乃の真代海軍乃一粒も砂を

お侍わりの火程や名醫と云はれ也。丹波守尉の冷酒の  
味はくもさき一や。終日百振をれを冷飲よまことよまれ  
かりも。さわかびるゝ大といふ。掌指も成然するにのぞ  
をふりてと度臍をたて良医と云ふと孔子のきまひ。  
楚辭よ九玄ちてあつともいふ。今時の人月ていひす  
度と臍をたてるといふ良医といふはなす。候はれは流  
ら良医ハ福医よ志うべ。明医ハ内医よ及ぶれりやあつ。け  
内医といふは信よ云内を医云かり。さるる事聞かすけと  
ども。ゆりゆと個中の良医をたて候よ人はままま  
ま。いはいごふとあ意百つ進宗也の権とて。珠璣も雲板

王手箱

二ノ九

づさいさあひ也。はもをささひ一且乃流も名医よるる  
あんや。叔又扁鵲のいなり。河よ巫を信とて医を信とるい  
一つの不信ありと六五信の中にまきまうとて。今の世間の病  
症をたると。其病も病よ。一は醫師よ。其病も貴く  
病人よあえ。病月よといはれ。大明神にれ。権親挿とをさ  
く乃立親し。又ハ神主社家よ。香積を送りて。様く  
の祈願をさあ。あひい代を立花神を立てを。河乃  
神くも立親を。神力をたのむをわたり。ああ  
も。病人本候とて。りい。医志の七さの祈ら。神に  
其病と来る人。くにも。風御。り。又病人本候とて。

祈れるゆゑにさういふ。医志ありていかにいふの友兄弟すま  
いふ尉の親友ご中そとを意味のりた人。あつたにたゞ他人  
よびひ。おのほわちや及れりうら遠とほひで此業ひがの死と致し  
とと新あらた收ひらのまればぐさ。年ひつ竟まつ無な病やまがるんううふ云々  
と医志のありてのいひくさ非あま重あま有あべ。つるゆじつに  
医い乃のの上うへ言ことたたああももととるるててくくこそとと世お侍の医いるるてい  
世よ上う用うららずず事こと務たづまます。行な又また代たわお侍の業わざをわゆるゆいえ  
従したがひひ御ごててふ君きみ乃の候ごう。心こころを思しひひては事こと成なりひひととままるる  
ままししとといいととぬぬててくるまま。友ともををももてて身みににままりりて  
ややととままととううとといいににききくく。熱あつ一いつのの心こころあありりああららぐぐくく。如ごと流りゅうは



朱丹漢醫乃よ

志しつ 羅大志

しんを

あぐめんてのら

つりてのら

書

書



羅大之丹漢の

切

柳

の

一、幼少は初一念う存らざる物申。だが今も是れを  
これをて教年親一家のよきで苦勞をうけし後先非を  
悔く甲斐有り。日本又小の神祇列して阿蘇大明神  
崇徳あり。これら心を望みし神祇の家より立入る  
神皇代柱となるべし。先祖交成のよしをみるふ  
議よは地立立ちをわが家業成は形なり。これの  
中にもあれは人命。徳政事方一礼とて。耐るのあは乃  
悦むとて。そのくもその心を夜をわらさるるに  
ふくみ満足せり。とてくもくやくぬねの心をやとらる  
一うと方人のよしをけ度いおとせ。心え人ゆりまひ

神祇お積あまをささめきしきしきとて。又東大垣も又  
物さしうもてさうせべし。まじりたあくのあまかきど  
け耐がんは教年たううものをそ席きしおさうりつし  
世の為人のわが事いれ用ひりて。あまら此をたけふ  
咽が干しうは勝あまをひり

廿六 夏紀の議端

夏紀にて魁とあり。候は祝をよれを盡し。田原に紀  
しと書しわら。業乃之まはををり。非情の唇ま  
は雲よめて山吹の樹よ花らひ。死は金の色をてりし。  
春は水よ入く拾ふ。晴と我んををいけ。雄と

玉手箱

二ノ十二

海へ入く塵とあり。いおれまよひのすいちらまも構着と  
ふくたのしきするの勢ひ。七十二候は記す色をいひは。  
今もまのなれ変化を西より言ふむいさるは易よとて要め  
の理ありて。尾を以て金は易さうとてれもいひ何事うこれよ  
まうん。ふ物事れ変化を思ふよさう尾の峰は著積の  
纏は雲。業生の峰はつとひ。まお至は秋は月乃夜  
八圍はぬ。子に祝をかる。祝は祖文とかる。婿は姑とあり。ま  
いまもさう。又林をくまどら事。皆天地の雲の理ありて  
とていさうさうさう。人と佛よかりは程あり。一休和尚  
乃例の口ばいといやといこれぬ世のまじり也凡人生

より死よつるまで大よ地をるむりつあり。五徳嬰孩少壯  
を暫死たがむ。生れくく二衆三衆のるへ本本と同止  
むらにて。只もああその養つてらるるをた。二衆より  
してへさぬぐのあそびと事と。鬼乃こぬまのせん。中の  
小佛がくまんがらんちららう宮さぐり事。大人の目うん  
てハニまうるるうすひかれた。そみ伏のんよいあをこそ  
又縁のたの〜と美。いゆる金根幼室臣酒お者とは  
移く刃せうらた物のねもせむと勢をえうにあらね  
ありま。これぞ嬰孩の時んあてかを制となき態よわ  
らど。まより一ツ重化して少壯とあさんてぬ。貴ハを整

三半箱

まよひ衣級をく。整よひいろ物をつぎ杓を榎の陌よ  
ひ。先祖よりたるとたる金根を瓦礫の〜くはひ〜。浴  
つそを逐電〜とぬぐと漂泊をるのあり。又ハ状乃勅高清  
編室よまき子も〜と〜き人の舌と嗅。後登の伊左乃梳久  
〜と祖神のやうに〜も〜もそのわられまふでい若よせの男  
かたは。四ツとあつて〜と一ツ〜は分別ある。後物先よまを  
ぬる夜月の夕よ〜あう〜育の事乃〜をひつ。根をたあ  
〜と〜孫子れゆの〜とひ〜。月よ〜と〜あまのり。年ハこ  
〜とよ〜輝と〜と〜。齒ハ杖の本乃〜と〜と〜。頭よハ  
おを〜と〜。腰ハ杖の弓を〜。昔よハ年ハ〜と〜



立居えふやうに。不作かけを。登架双六流をたの  
 一。おのねまよへんぜうのもの。わつて。て。きた。た。の  
 まつりを毎日とんけりも。是れ。が。お。坊。を。ん。ん。の。時。を  
 わく。れ。ち。う。う。ち。間。ま。の。む。ひ。も。や。い。や。を。一。が。あ。う。と。十。百  
 倍。に。さ。び。息。杖。の。ゆ。ほ。も。う。か。れ。ぐ。え。は。化。を。事。あ。こ  
 ども。ま。時。く。れ。ま。よ。ま。ご。ひ。の。苦。味。を。い。ま。う。ま。ひ。た  
 へ。ま。の。生。乃。氷。と。さ。う。さ。に。等。し。只。い。天。地。を。り。こ。を。石。は  
 今。ま。か。う。う。さ。を。め。で。た。れ。は。ま。ご。も。邵。康。帝。れ。後。し。ハ  
 十二万九千六百年の後。又。は。天。地。を。り。と。顛。う。く。一。つ。乃  
 新。卵。の。ご。ま。き。物。と。う。う。又。あ。の。う。う。と。ま。ま。て。困。辱。を。う。ま。え。ハ  
 三三箱  
 二八十四  
 ねい耐とねい貴万事も生しとて。礼済り。に。見。お。せん。と。今  
 一。れた。の。と。ま。く。世。間。の。子。友。が。正。月。の。オ。も。と。持。を。お。て。ま。ら  
 の。り。よ。と。ま。か。う。ら。め。う。う。む。て。ま。ご。び。思。と。か。ら。と。へ。う。さ  
 乃。ゆ。び。ア。ガ。る。一



お生む子銀書之二終